

道標一道しるべーみちしるべ

加来 利一

「彼岸花 仏の眼には道しるべ」 インターネットのブログで見つけた大聖さんの一句ですが、滞標ー滞つくしーみおつくしと並んで、癒しのまた励ましの感じがする言葉です。

広辞苑では、「道路を通行する人の便宜のため、木・石などに方向・距離などを記し路傍に立てた標示物」と味も素っ気ありません。

道標の歴史はあまり系統的に調べられたものはないようですが、高野山関係の文献によりますと、高野山の町石（一般的にはチョウセキと読みますが、高野山や後述の勝尾寺では、チョウイシと読むそうです）は鎌倉時代以前は木造の案内標だったものが、文永3年（1266年）以降石造に置き換えられそうですので、一般の道標も最初は木造だったのでしょう。

しかし、当然雨ざらしの木造の道標は朽ち果てて、現存するものは昭和以降に設置されたものばかりです。

最近、インターネット上の情報も沢山になり、道標の情報も発信する方が多くなりましたので、日本国内の古い道標を調べてみました。

その際、一般の道標と町石は、町石の方が古い設置年が記銘されているものが多いことがわかりましたので、分けて調べてみました。

町石は国の指定文化財等になっているものがありますので、それによりました。

もっとも古いものは、宝治元年（1247年）に造設された勝尾寺町石で、「寺の参道に沿って立てられた丁数を示す標識、当時の用語では町卒塔婆」と解説され、山門前のものには下乗と刻し、次いで一町から始まり現在七丁まで遺存しているそうです。

一般の道標は、調査が難しかったのですが、兵庫県宝塚市の教育委員会の市史研究誌や大阪府池田市の冊子などの記事を参考にして、道標であり、町石でないことをそれぞれに確認して、寛文年間（1673年）以前のものでインターネット上に確実な情報のあるものをまとめてみました。附表ー1



日本最古の 勝尾寺町石



宝治元年（1247年）11月に建立されました。わが国最古の町石として国指定史跡にされています。

日本最古の記年道標と思われる 宇治館町の道標



伊勢市宇治館町の宇治岳道と磯部道の分岐点に立ち「朝熊岳道 寛永三丙寅年 二月吉日」と記銘されているそうです。

四日市市 日永の道標



三重県四日市市追分1 東海道伊勢街道の分岐点にあたります。明暦二年(1656)に建てられたものが、嘉永二年(1849)に追分神明社に移り、さらに明治時代に日永神社に移されたそうです。記銘には「京」「山田」「南無阿弥陀仏 恵心」「明暦二丙申三月吉日」とあるそうです。

河内長野市 小深の道標



大阪府河内長野市小深にあり、記銘は 金剛山道 万治辛丑 とのことです。

◎ 房総の道標電子インデックスデータベース（以下道標 I D B）

コンピューターが開発されて、電子データベースの考え方が生まれ、多数のデータベース作成用言語やソフトが市販されるようになりました。

また、インターネットの普及で作成されたデータベースを閲覧したり、利用したりすることも容易になりました。

データベースにもいろいろな種類がありますが、その作成に当たって重要なことは、何に使うことを目的にするかです。

道標 I D B では、第一の目的を千葉県内の道標の現位置を緯度経度を使用して特定することと、調査時点現在の状況をデジカメの写真で撮影し表示することとしました。

従って、道標を現認することを原則としました。

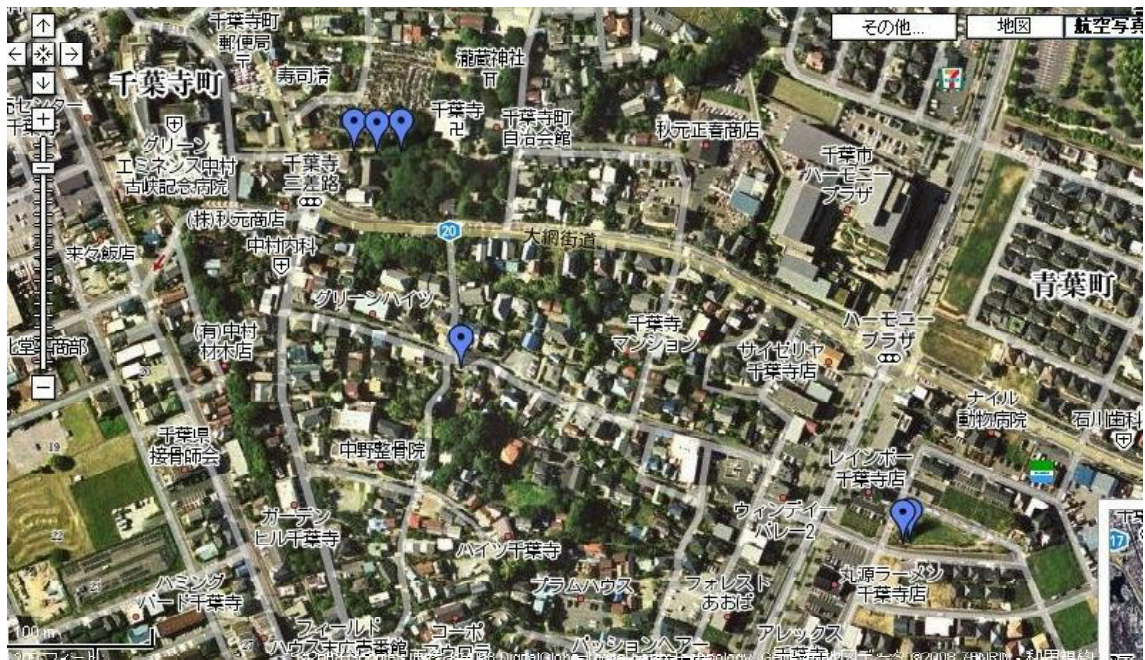
記述内容などその他の情報は、過去調査された情報を抄述しました。

経緯度がありますので、電子地図を用いれば場所の表示は容易ですが、公開されているインターネット上の地図とのリンクを取っています。

以上のことから、利用者の方の野外活動、調査、研究などを支援することが総合的な目的（ねらい）であるともいえます。

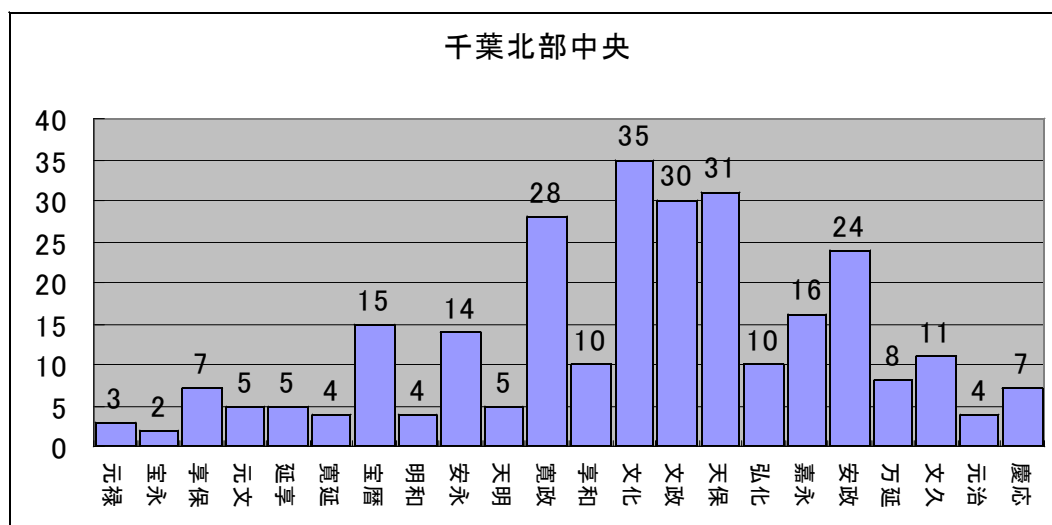
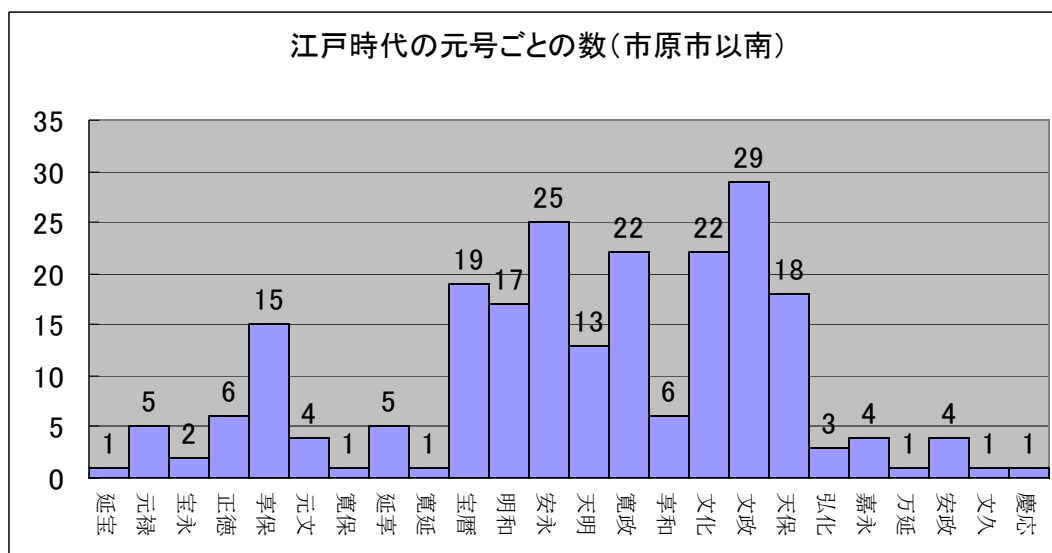
そこで、著作権については C C（商業用の利用以外はすべて自由）としています。

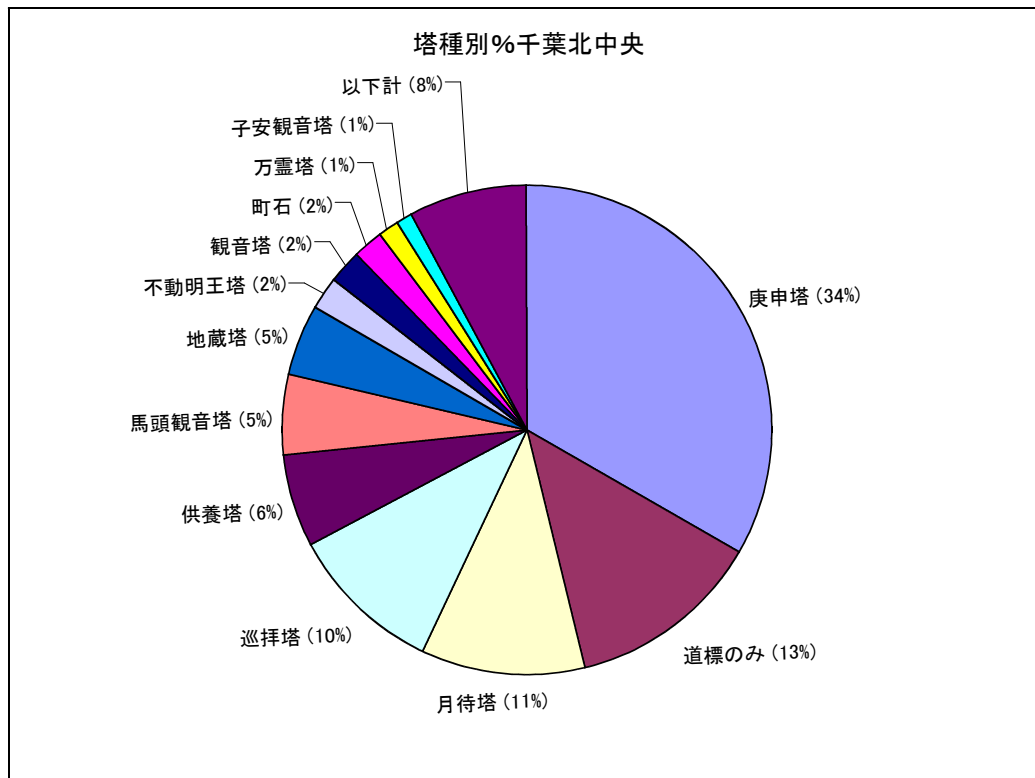
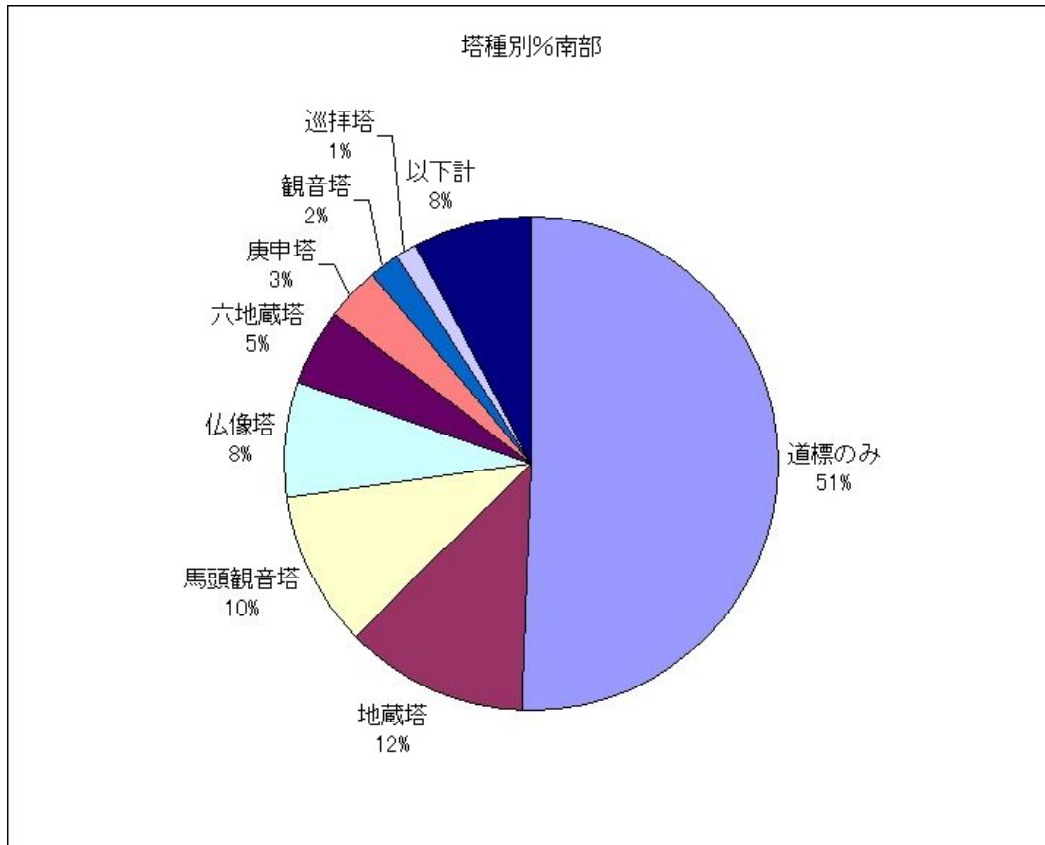
千葉市内江戸時代の道標を例にして、道標 I D B の内容例を示します。附表－ 2 参照



◎ つぎに、まだ調査途中ですが、現在の道標 I D B を集計（集計対象部分が不明のものを除く）することによって得られる江戸時代の情報の例を示します。

市原市以南（南部と仮称しています）のデータは今後内容の大きな変更がないと考えて、調査中の北部とわけて示しました。データ数は南部 5 1 9 基、北部 3 0 0 基です。





◎ 現在の道標 I D B に記載されている道標の中から、各塔種の写真若干を表示します



記載内容が道標のみのもの
角柱道標（いすみ 0 1）



馬頭観音
塔（市 4
3）



地藏塔（袖15）



庚申塔（印西12）



月待塔（印旛06）



巡拝塔（佐倉25）

◎ 多数の道標を建造した願主（二つの例）

① 眞永（坂東33カ所観音巡礼）

28番札所滑川観音から27番札所飯沼観音に至る12基の里程標が願主 眞永として現存しています。いずれも、天明3～4年（1784～5年）に建立されたものです、

② 眞念（四国88カ所大師巡礼）

眞念は江戸初期の僧で貞享4年（1687年）に「四国遍路道指南」という遍路の案内書を出し、また、遍路道の200カ所に道標を建立しています。「眞念さんは四国遍路の基礎を築いた人物」とも言われています。

◎ 久留里街道殿様道と道標

久留里街道については、多くの文献があり、西往還、中往還及び東往還の3ルートがあったと言われています。

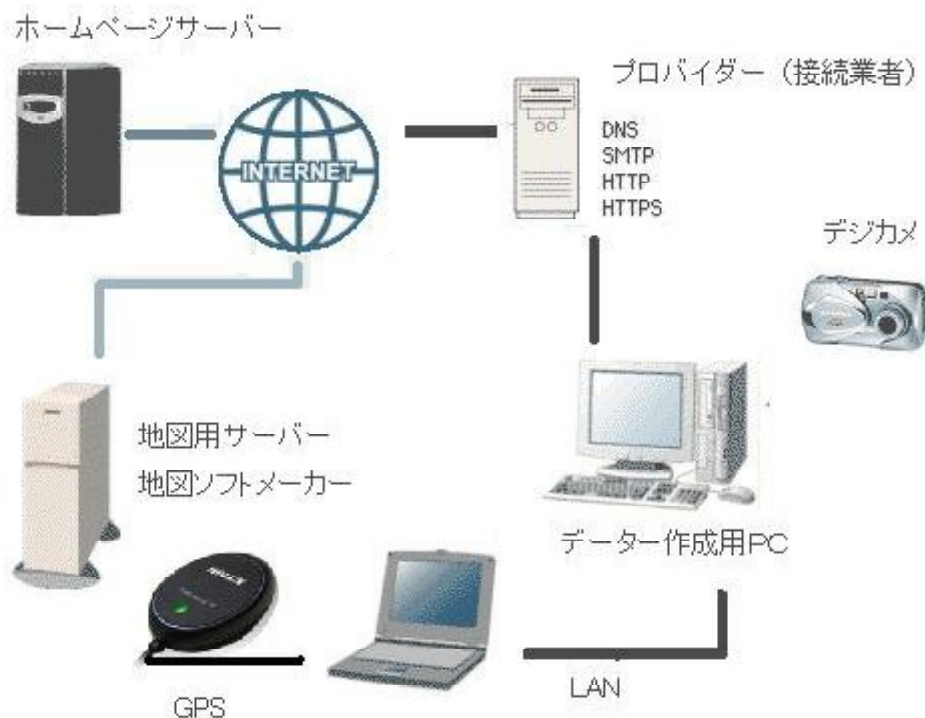
西往還は、五井－椎津－椎津新田－天羽田－神泉－高野－久留里、中往還は五井－平田－村上－廿五里（ツイヘイジ）－町田－今富－宮原－引田－立野－川原井－高野－久留里、東往還は、八幡宿－牛久－久保－養老－本郷－平野－月崎－久留里とされています。

ここでは、久留里藩主黒田氏が参勤交代路として利用したとされる中往還（殿様道とも言われます）と現存道標とを見ていきたいとおもいます。





◎ 道標 I D B の構成システム図



◎ 道標 I D B のホームページアドレス

<http://kaku-net.jp/douhyou>

◎ ウィキペディア百科事典

ウィキペディア
フリー百科事典

ナビゲーション

- メインページ
- コミュニティポータル
- ル
- 最近の出来事
- 最近更新したページ
- おまかせ表示
- アップロード (ウィキメディア・コモンズ)
- ウィキペディアに関するお問い合わせ

ヘルプ

- ヘルプ
- ガイド
- お知らせ
- バグの報告
- 寄付

検索

ツールボックス

- リンク元

ログインまたはアカウント作成

[本文](#) [ノート](#) [編集](#) [履歴](#)

道路元標

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

道路元標（どうろげんひょう）とは、**道路の起終点**を示す工物である。

変遷

旧道路法では各市町村に一個ずつ設置することとされていた。設置場所は府県知事が指定することとされており、ほとんどは市町村役場の前か、市町村を通る主要な道路同士の交差点に設置されていた。東京市に限っては旧道路法施行令によって日本橋の中央に設置することと定められていた。道路の起終点を市町村名で指定した場合は、道路元標のある場所を起終点としていた。

現行の道路法では、道路元標は道路の附属物とされているだけで特段の規定はなく、道路の起終点は道路元標と無関係に定められている。道路元標の設置義務がないため、取り壊されたり、工事などでいつの間にかなくなってしまった道路元標も少なくない。

日本橋の中央にあった東京市道路元標は、1952年の日本橋の道路改修に伴い日本橋の北西側袂に移設された。東京市道路元標があった場所には、50cm四方の日本国道路元標が埋め込まれた。

関連項目

- 距離標

外部リンク

- 道路元標ニ関スル件（大正11年内務省令第20号）
- 日本の道路元標（国土交通省東京国道事務所）
- 道路元標が行く（現存する道路元標の一覧がある）

日本橋の日本国道路元標

日本橋の日本国道路元標と台座石全景

◎ その他

市町村合併と文化財
自治体所管部署の競合
所有権などの問題